



Dr. RuGuo Huの コーヒーマシンへの思い

～戸川よりインタビュー（2014.12.29）～

インタビュー

2014年12月29日、
中国寧波市のNingbo Sunlight
Electrical Appliance社のゼネ
ラル・マネージャーRuGuoHu氏と
面会する機会があり、K-CUPコー
ヒーマシンに対するHu氏の思い
をインタビューした。
弊社の新商品「K-DRIP COFFEE
BLENDER」は同社にOEMで製造委
託を行っている。



以前、Hu氏はNestle社の重要部門に携わっており、そこで得た知識と経験を活かし、今回のK-CUPコーヒーマシンのビジネスに乗り出している。今回のコーヒーマシンの設計もHu氏が大きく関与しており、プロジェクトが進められてきたそう。

美味しいコーヒーを淹れるためのこだわり

K-Cupコーヒーを美味しく淹れるためには以下の3つのポイントが重要だとHu氏は話す。

- ① 温度
- ② コーヒーへの圧力
- ③ 抽出時間

K-DRIP COFFEE BLENDERはこのすべてのポイントを兼ね備えている。水タンクに入れた水をマシン内部で約90℃の湯に素早く変え、マシン内に搭載されているポンプがK-Cupコーヒーに圧力をかけ、程良い濃度のコーヒーを抽出させる。また、メモリーモードの機能搭載により抽出量を設定することができ、それぞれの好みに合わせたコーヒー濃度で美味しいコーヒーを楽しむことができる。

K-DRIP COFFEE BLENDERの 自慢のポイント

世界最速の速さで抽出開始の出来る
インスタントコーヒーメーカー

世界で最も省エネのコーヒーメーカー

デザイン性の高いマシンボディ



K-DRIP COFFEE BLENDERの 自慢のポイント

①世界最速の速さで抽出開始の出来るインスタントコーヒーメーカー



- ・世界初、2秒以内に湯を沸かす石英管インスタントヒーターを搭載
- ・ナノレイヤーコーティングによる、小型で強力な電気エネルギーを生み出すことが可能。わずか1秒でヒーターの温度は100°Cに達する。
- ・2014年7月、PCT国際特許を申請。

K-DRIP COFFEE BLENDERの 自慢のポイント



②世界で最も省エネのコーヒーメーカー

他社のコーヒーメーカーは、電源を入れて湯を沸かすのに時間がかかりその分の電気エネルギーをヒーターに要する。また、1杯目のコーヒーを淹れ、2杯目のコーヒーを淹れる時も続けてエネルギーを消費する。

K-DRIP COFFEE BLENDER は、ヒーターに対して必要な時にだけ電気エネルギーを消費する。電源を入れると、まずインスタントヒーターが湯を沸かす準備の為にエネルギーを消費。また、カップボタン/マグボタンを押し、コーヒーを抽出している時間のみエネルギーを消費する。必要があるときのみエネルギーを消費し、必要がなくなればヒーターは電気エネルギーの受け入れを遮断する仕組みとなっている。

他社の製品と比べ、ヒーターに対しての電気エネルギーの消費が圧倒的に低いこと、これがK-DRIP COFFEE BLENDERが省エネで動くコーヒーメーカーである所以だ。

K-DRIP COFFEE BLENDERの 自慢のポイント

③デザイン性の高いマシンボディ

K-DRIP COFFEE BLENDER は、Hu氏がある展示会で見つけたフランスのデザイナーとコンビを組んでマシンボディのデザインが行われた。

Hu氏のデザインに対する思いは、新しい若き世代の人々が好んで使えるよう、従来の大きなマシンとは異なった、小柄で見た目も現代的かつスタイリッシュなもの、コーヒーの新しい時代を感じさせるようなデザインにしたいという思いが彼の頭の中にあったそうだ。



品質へのこだわり

High Quality is Live of Company

～「高品質」は会社が生き残るためには最も重要なことだ

品質に対するこだわりを尋ねたとき、一番初めにHu氏の口から出た言葉だった。

高い品質を自らが保持していくため、生活水準の高い国の人々をお客様とし、彼らが満足のいく水準に自分たちのレベルを上げていく。これが企業として、品質の向上を同時に高めていくとHu氏は話した。

同社では、QC課(Quality Check)を設置し、高い品質が保たれていることの確認をおこなっている。しかし、品質面においてはまだまだトップであるとは言い切れない。

様々な国の人々をお客様にし、それぞれの国に見合った基準をクリアすることで、自らの安全面に対する技術も向上していきたいようだ。そして、品質面においても中国一の企業となることを目標に掲げているそうだ。

品質へのこだわり

今回、コーヒーマシンにおいて、弊社のオーダーが同社にとって初めての日本のお客様となったそう。

日本は世界的に見てもハイクラスな生活水準を持つ国、同時に安全面に対する内容も多岐にわたり、同社にとっても挑戦的なものとなったそう。

インスタントヒーターに関する安全面はもともと自負をしていたためあまり心配はしていなかったそうだが、ヒーターに指示を与えるマシンの脳とも言えるPCBAにはかなり気を遣ったそう。日本の規格をしっかりと調べ、それに合わせた的確な指示を出すように調整を行うことで対応をしたよう。

また、マシン内部のそれぞれのパーツに関しても、日本のお客様ということで高品質を有するサプライヤー（パーツ業者）を選定し、それらを組み合わせて高い生活水準にも適合できるコーヒーマーカを製造した。

Dr. Huのコーヒーマシンへの思い



Hu氏が語るには、
とにかくコーヒー業界に新しい風を入れたいという。

従来の電源ボタンを押してから湯が沸くまで
1～3分程待たなければいけないというコーヒーマシンの常識を崩したかった。

また、重量の重い大きなマシンという当たり前の形状も変えたかった。

そこで、同社の誇るインスタントヒーターの技術を取り入れ、また新しいスタイリッシュなコーヒーマシンの形状とともに、
新しいコーヒー時代を突き進んでいきたい。

このようなアイデアは、Hu氏のNestle時代に行ったマーケット調査の結果もちろんのこと、彼の「ものづくりは常にお客様目線で」というこだわりも、その大部分を占めるものだ。

K-CUPが世界中で一般的になれば、マシンの需要はさらに拡大していく為、高い品質を持ったマシン作りはまだまだこれからで、さらなる挑戦をしていきたいと語る。